

あこうの

じごとうた・わらべうた



赤穂市教育委員会

表紙題字
赤穂市長 笠木忠男

赤穂の

しごとうた・わらべうた



赤穂市教育委員会

序

「しごとうた」や「わらべうた」は、いつの頃とも知れず、誰ともなく歌い継がれ、親から子へ、子から孫へと口うつしに伝承されてきた郷土のくらしのうたであり、ふるさとの心のうたでもあります。

このふるさとのくらしと心を伝えるうたを、永く後世にかけて伝承保存したいと願って、まとめたものがこの冊子であります。

しごとうたには、労働の中での血のにじむような先人の思いや祈り、人間的な哀歎がこもっており、わらべうたにもつつましいあこがれや願いがうたいこめられています。これら民謡はまた庶民のこころの生活のしらべであります。

この冊子の刊行を契機に、ふるさとに生きた先人の心情にふれ、そのくらしに思いをいたし、地域に新しい人間環境を形成するために、これを広く活用していただき、声高く歌い継がれていくことを祈念するとともに、まだまだ多く埋もれているうたを探し訪ね発掘していただきますようお願いいたします。

最後に、この度の収録採譜にあたって赤松秀幸、友道令江子両先生をはじめ、多くの方々のご労苦に感謝し、厚くお礼申しあげる次第であります。

昭和60年3月31日

赤穂市教育委員会

教育長 木山正規

はじめに

最近、わたしたちの生活が急速に機械化され、合理化されるにしたがって、古くから歌い継がれてきた赤穂の民謡は消滅しつつあります。

これらの民謡は、わたしたちの祖先の風俗・習慣・伝説・信仰などのうえに芽生えた文化遺産であるため、ここに採集採譜し、保存伝承していくものであります。

ところで、盆踊りに歌われるような集団伝承的な唄は比較的滅びにくいものですが、個人伝承的なものは失われやすいものであります。特に後者は、人により、歌詞によって旋律の変動が多くみられ、例えば、「緞通織り唄」や「お手玉唄」など個人演唱の録音によるテープからも伺えるように、同じ旋律を1番、2番と歌っているが、採譜してみると多少の相違がみられます。

そこで、このような曲に比較的多い偶発的な誤唱と、意識的な変唱とを区別し、意識下にあるリズムや旋律の底流をも探索するように努め、「最大公約数的作譜」を試みて提示してみました。

また、歌詞の吟味は、重要な手掛りを与えてくれることが多く、特に民謡は、芸術歌曲以上に歌詞の詩型、アクセント、イントネーションが旋律やリズムに影響を与えているので歌詞の採譜も重要なことと考え、全て歌われたものを記しました。

なお、昭和59年8月から12月までの期間、友道令江子氏によって録音、採譜された塩屋・坂越・有年などの各地域の民謡のうち、古老たちの録音の素描ということもあって、拍子や小節区分の困難なものもあり、特にこれらを避けた楽譜も提示してみました。

最後に、浄書・校正にあたってくれた茶谷雅子氏に深く感謝します。

昭和60年3月10日

赤松秀幸

目 次

はじめに

しごとうた (労作歌)

1	歌えなされよ (田植えうた)	1
2	ソラあとへよれさまよ (田植えうた)	2
3	畦の草場は (苗場のうた)	2
4	かわいけりゃこそ (とうすひきうた)	3
5	歌いナーなされよ (とうすひきうた)	3
6	酒は飲みたし (とうすひきうた)	4
7	寝たや寝ぶたや (とうすひきうた)	4
8	ヤレ塩屋からへ (石つきうた)	5
9	なんと皆さん (石つきうた)	6
10	アーこがれこがれて (池ぶしんうた)	6
11	アーめでためでたの (池ぶしんうた)	7
12	ハー鯉のよーエ (池ぶしんうた)	8
13	ハーわしがよーエ (池ぶしんうた)	9

わらべうた

14	一目二目 (羽根つきうた)	10
15	一め二め (羽根つきうた)	10
16	一人来な二人来な (羽根つきうた)	11
17	おひとおさら (お手玉うた)	12
18	一番始めは一の宮 (手まりうた)	14
19	一番最初に一の宮 (まりつきうた)	15
20	うちの裏のチシャの木に (まりつきうた)	16
21	郵便さん (なわとびうた)	18

22	郵便屋さん (なわとびうた)	19
23	一匁の一助さん (あそびうた—手まりうた—)	19
24	淀の川瀬の (あそびうた—まりつきうた—)	20
25	中の中の小坊主 (あそびうた—なわとびうた)	20
26	お爺お婆団子せ (あそびうた)	21
27	かごめかごめ (あそびうた)	22
28	一ツ雛が米の虫 (手合せうた)	22
29	豆だが徳利持て (童のざれうた)	23

子もりうた

30	ねんねん (子もりうた)	24
31	ねんねんよお (子もりうた)	25
32	ねんねんよ (子もりうた)	26
33	ねんねしなされ (子もりうた)	26
34	あいつ憎いやつ (子もりうた)	27
35	坊やおの裏の (子もりうた)	28
36	ねんねころ市 (子もりうた)	28
37	紺屋のチュッチュさん (幼児あやしうた)	29
38	おせさんこせさん (幼児あやしうた)	30

祝いうた

39	ア—ヨー—イ—サー—エお伊勢参りは (伊勢音頭)	32
40	ハ—お伊勢参りして (伊勢音頭)	34
41	ア—ヨー—イ—サ—エ播州出たときゃ (伊勢音頭)	35
42	奈良で名所は (伊勢音頭)	36
43	目出たな—エ (婚礼のうた)	37
44	うちの座敷は (あめでたい時のうた)	38
45	娘な—エ (長持唄)	39

祭りうた

- 46 イヤーエここのな座敷は（屋台音頭—やたけのうた） 40
47 イヤーエ目出た（屋台音頭—やたけのうた—） 41

歳時うた

- 48 おんの豆おくれ（節分のうた） 42
49 今夜参ってくらんせよ（報恩講のうた） 42
50 アラーもろたり（豎楯音頭） 43
51 みんなで（ちょうちん行列のうた） 44

記念うた・その他

- 52 我らの住める（塩屋村のうた） 45
53 青き荒野の（尾崎小学校新築祝い唱歌） 46
54 晴れた青空（坂越港朝の風景のうた） 47
55 山岳ふるい古歌言く（日露戦争のうた） 47
56 一烈談判（日露戦争のうた） 48
57 国の基は（国勢調査のうた） 49

あとがき

しごとうた (労作歌)

1. うたえなされよ (田植えうた)



う た え な さ れ - よ - - ど な - た に よ - - ら ず



ソ ラ ど な - た に よ - - ら ず



う - と て - ご - - き - り よ - - が の ホ イ ホ イ



ホ ラ さ - - が - ら - せ ず お も し ろ や



ヤ レ コ ラ ノ ヒ ョ - タ ン ヤ ヨ イ ヨ イ コ ラ コ ラ

1. うたえなされよ どなたによらず
ソラ どなたによらず
うとてご器量がの ホイホイ ホラ下がらせず おもしろや
ヤレコラノ ヒョータンヤ ヨイヨイ コラコラ
2. 来るか来るかと 浜へ出て待てば
ソラ 浜へ出て待てば
あまのきつねがの ホイホイ アーこんというた おもしろや
ヤレコラノ ヒョータンヤ ヨイヨイ コラコラ
3. 今朝も今朝とて おかしなけんか
ソラ おかしなけんか
わしの茶わんには ホイホイ ホらいもがない おもしろや
ヤレコラノ ヒョータンヤ ヨイヨイ コラコラ



田淵銀三・平井はる うた
旧塩屋村を語る会 採集
(昭和58年)
友道令江子 採譜

2. ソラ あとへよれさまよ (田植うた)

ソラあとへよれさまよ

あーとへーよーらーれーばのーホイホイ

アラひーがーくーれるおもしろやヤレコラノーヒョウタン

ヤ アーヨイヨイ コラ コラ

ソラ あとへ よれさまよ
 あとえ よらればの ホイホイ
 アラ 日が暮れる おもしろや
 ヤレコラノー ヒョウタンヤ
 アーヨイヨイ コラ コラ

田淵銀三 うた
 塩屋東睦会 採集
 (昭和59年11月6日)
 友道令江子 採譜

3. 畦の草場は (苗場のうた)

あぜのくさばはわらのなか かえりていつる しろきがが

よるなわしるに とびいりて たのもののいねを あらすなり

1. 畦の草場は わらの中 帰りて出づる 白き蛾が
 夜苗代に 飛び入りて 田のもの稲を 荒すなり
2. ひとかたまりの その卵 春と秋との 間には
 万余の虫と 増えゆきて 田のもの稲を あらすなり

田淵銀三 うた
 塩屋東睦会 採集
 (昭和59年11月6日)
 友道令江子 採譜

4. かわいけりゃこそ (とうすひきのうた)

かわい けーりゃこそ たたきもしたり
 にくい こーどもがー たたかりょうか ギッコーンギッコーン

1. かわいけりゃこそ たたきもしたり
 にくい子供が たたかりょうか ギッコーン ギッコーン
2. うすよひけひけ だましてくわす
 ひかんものには みせておけ ギッコーン ギッコーン

田淵銀三 うた
 旧塩屋村を語る会 採集
 (昭和58年)
 友道令江子 採譜

5. うたいナーなされよ (とうすひきのうた)

うたいナー――なされ――よどなたに――よら――ず ドッコイセドッコイセ
 うとて――ごきりよ――がヨイヤナさがりゃせぬ
 ヨーイ ヨットセー ヨイヨットセ アレモセー コレモセー ナンデモセー

- うたいナなされよ どなたによらず ドッコイセ ドッコイセ
 うとて ご器量が ヨイヤナ下がりゃせぬ
 ヨーイヨットセー ヨイ ヨットセ
 アレモセー コレモセー ナンデモセー

田淵銀三 うた
 塩屋東睦会 採集
 (昭和59年11月6日)
 友道令江子 採譜

6. 酒は飲みたし (とうすひきのうた)

さけは のみー たし ヨー さか やはー ね とー る

おき とる さか やにや かり がある ギッコイ ギッコイ

酒は飲みたしヨー 酒屋は寝とる
 起きとる酒屋にや 借りがある ギッコイ ギッコイ

橋本光男 うた
 友道令江子 採集
 (昭和59年11月30日)
 友道令江子 採譜

7. 寝たや寝ぶたや (とうすひきのうた)

ね た や ねぶ た やー エ ね た よー がー よ かー る

し も てー ね た よー がー な お よー かー る ギッコイ ギッコイ

寝たや寝ぶたやエ 寝たよが良かる
 しもて寝たよが なお良かる ギッコイ ギッコイ

橋本光男 うた
 友道令江子 採集
 (昭和59年11月30日)
 友道令江子 採譜

8. ヤレ塩屋からへ (石つきうた)

ヤレ—し—お—や—か—ら—へしお—や—か—ら ヤレ アラガエ
 むらの—こむすめ—を つ—れてかえるがおいかけな
 ヤレ な—か—の— — ナ—よ—い ヤ エ ヤ エ
 エ—サーノサン サーエ ヤーヤーヤートセ

1. ヤレ 塩屋からへ 塩屋から ヤレ アラガエ

村の小娘を連れて帰るが 追いかける

ヤレ 仲のナ良いヤエヤエ

エ—サーノサン サーエ ヤーヤーヤートセ

2. ヤレ 石を突きに来たべ 油断すな ヤレ アラガエ

村の小娘を連れて帰るが 追いかける

ヤレ 仲のナ良いヤエヤエ

エ—サーノサン サーエ ヤーヤーヤートセ

田淵銀三 うた
 塩屋東睦会 採集
 (昭和59年11月6日)
 友道令江子 採譜

9. なんと皆さん (石つきうた)

なんとーみな さー ー んうたお じゃな いー か

うた お じゃな いー か

う とてごー きりよー ー がーのー ホイホイ さ がーりゃせぬ おもしろや

ヤレコラノー ヒョウタンヤ ヨイヨイ

1. なんと皆さん うたお じゃな いー か うたお じゃな いー か
うとてご器量のの ホイホイ 下がりゃせぬ おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヤ ヨイヨイ
2. 泣いて涙を こぼさぬものは こぼさぬものは
しばい役者か ホイホイ にわとりか おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヤ ヨイヨイ
3. あの子 良い子じゃ わし見て笑ろた わし見て笑ろた
わしをみてやりの ホイホイ 笑てやる おもしろや
ヤレコラノー ヒョウタンヤ ヨイヨイ

池本 善吉 うた
池本 一一 採集
(昭和40年1月1日)
友道令江子 採譜

10. アーこがれこがれて (池ぶしんのうた)

アーこがれ こがれ ー て なくー せみー よ ー りー も

な ー ー かぬ ほ たー る ー がノー ホイホイ

ごーりーしょーか おもしろや
 ヤレコラ ノー ヒョウタンヤ ヨイヨイ

アーこがれこがれて 鳴くせみよりも
 鳴かぬ蜚がノホイホイ ごりしょうか おもしろや
 ヤレコラノー ヒョウタンヤ ヨイヨイ

橋本 光男 うた
 友道令江子 採集
 (昭和59年11月30日)
 友道令江子 採譜

11. アーめでためでたの (池ぶしんのうた)

アー めでためでた -- の わかまつ -- さ -- ま -- よ
 ハー え -- だも -- さ か -- え -- ー の ホイホイ
 は -- も -- ー げる おもしろや ヤレコラ ノー ヒョウタンヤ
 アー ソレソレ

アー 目出た目出たの若松さまよ
 ハー 枝も栄えるの ホイホイ
 葉も茂る おもしろや
 ヤレコラノー ヒョウタンヤ
 アーソレソレ

橋本 光男 うた
 友道令江子 採集
 (昭和59年11月30日)
 友道令江子 採譜

12. ハー鯉のよーエ (池ぶしんのうた)

ハ --- こ --- いの --- よ --- エ ---

エーたきの ぼ --- り ヨイヨイ

なんと ゆ --- ての --- ぼ --- る

ハラあ --- のせな --- え コラサカ ヨイヨイ

ア --- このせ --- と --- ヨイエーヨイヤ --- ナ

ゆての --- ぼ --- る --- ソラ ヨーイー --- トコセ ヨイー --- ト --- コセ

ハー鯉のよーエ 滝のぼり ヨイヨイ
 何とゆてのぼる
 ハラ あ のせなえ コラサカ ヨイヨイ
 ア --- このせと ヨイエーヨイヤ --- ナ
 ゆてのぼる
 ソラ ヨーイー --- トコセ ヨイー --- ト --- コセ

橋本 光男 うた
 友道令江子 採集
 (昭和59年11月30日)
 友道令江子 採譜

13. ハーわしがよーエ (池ぶしんのうた)

ハーわ -- しが よ -- エ

えだしまーす -- よ ヨイヨイ

やぶから -- よー さー さー を

ハラつ -- けて な -- え コラサカ ヨイヨイ

アーおく れー よい なー ヨイヤー ナ

ハラ たん じゃくー を ソラ ヨイトコセ ヨイトーコーセ

ハーわしがよーエ え出しますよ ヨイヨーイ
 藪からよ笹を ハラ つけてなえ コラサカ ヨイヨイ
 アーおくれよいなヨイヤーナ ハラ たんじゃくを
 ソラ ヨイトコセ ヨイトーコーセ

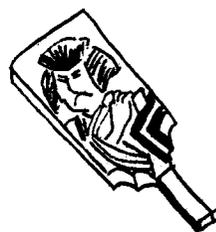
橋本 光男 うた
 友道令江子 採集
 (昭和59年11月30日)
 友道令江子 採譜

わらべうた

14. 一め二め (羽根つきうた)

ひとめ ふため みやこし よめご
 いつやの むかし ななやの やくし
 ここのや とう で ひーやー ふー
 みーやー よ

1. 一め 二め 三やこし 嫁ご 五夜の昔
 七夜の薬師 九の夜 十で ひーや ふーや みーや よーや
2. 一人来な 二人来な皆な来な寄って来な いつ来ても難かしい
 なんぼいても やかまし 今度来たら 戸締めろ ひや ふや みや よや



平井 はる うた
 旧塩屋村を語る会
 (昭和58年)
 友道令江子 採譜

15. 一め 二め (羽根つきうた)

ひとめ ふため みやこし よめご
 いつやの むさし ななやの やこし
 ここのや とーや ひーやー ふー



一め 二め 三やこし 四めご
 五つやの 六さし 七やの 八こし
 九のや 十や ひや ふ みや よ

青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

16. 一人来な二人来な (羽根つきうた)

ひとりき な ふたりき な みて きて よってき な
 いつ きて みて も なな この おび を
 やの じに しめ て ここ のや と おや
 ひい やー ふー みい やー よ
 いー つや むー なー なー や
 ここ のや と おや

一人来な 二人来な 見て来て 寄って来な
 いつ来て 見ても ななこの 帯を
 矢の字に 締めて ここのや とおや
 ひいや ふ みいや よ
 いつや む ななや ここのや とおや

青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

17. おしとおさら (お手玉うた)

おしと - おさら おひとつ おとして おさら

おふたつ おとして おさら おみんな おさら

おてすけ おさら おつかみ おさら

おちりんこ おさら おひだりこ おひだりこ

しゃしゃりこ とんで おさら なかよせ つまよせ おさら

しおつけ からつけ おさら しーる しる おさら

おっかい むし おかい むし むしむしで おさら

こーばしくぐれ おーばしくぐれで おさら

1. おむねかわかして おさら
2. おそでかわかして おさら
3. おひざかわかして おさら
4. おつめかわかして おさら

おひとつ えの どれこれさん

おふたつ えの どれこれさんで おさら

(お手玉唄)

1. おしと おさら おひとつ落として おさら おふたつ落としておさら おみんな おさら
おてすけ おさら おつかみ おさら おちりんこ おさら お左こ お左こ
しゃしゃりこ飛んでおさら なかよせ つまよせ おさら 塩漬けから漬けおさら するする おさら
おっかい虫 おかい虫 虫虫で おさら 小橋 くぐれ 大橋くぐれで おさら
お胸 かわかしておさら
おひとつえの どれこれさん おふたつえの どれこれさんでおさら
2. おしと おさら おひとつ落として おさら おふたつ落としておさら おみんな おさら
おてすけ おさら おつかみ おさら おちりんこ おさら お左こ お左こ
しゃしゃりこ飛んでおさら なかよせ つまよせ おさら 塩漬けから漬けおさら するする おさら
おっかい虫 おかい虫 虫虫で おさら 小橋 くぐれ 大橋くぐれで おさら
お袖 かわかしておさら
おひとつえの どれこれさん おふたつえの どれこれさんでおさら
3. おしと おさら おひとつ落として おさら おふたつ落としておさら おみんな おさら
おてすけ おさら おつかみ おさら おちりんこ おさら お左こ お左こ
しゃりんこ飛んでおさら なかよせ つまよせ おさら 塩漬けから漬けおさら するする おさら
おっかい虫 おかい虫 虫虫で おさら 小橋 くぐれ 大橋くぐれで おさら
おひざ かわかしておさら
おひとつえの どれこれさん おふたつえの どれこれさんでおさら
4. おしと おさら おひとつ落として おさら おふたつ落としておさら おみんな おさら
おてすけ おさら おつかみ おさら おちりんこ おさら お左こ お左こ
しゃしゃりこ飛んでおさら なかよせ つまよせ おさら 塩漬けから漬けおさら するする おさら
おっかい虫 おかい虫 虫虫で おさら 小橋 くぐれ 大橋くぐれで おさら
おつめ かわかしておさら
おひとつえの どれこれさん おふたつえの どれこれさんでおさら

前川恵美子 うた
前川 竹司 採集
(昭和55年)
友道令江子 採譜

18. 一番始めは (手まりうた)

いちばん はじめは いちのみ や にーで にっこう どうしょうぐう
 さーんでさぬきの こんびら さん しーでしなのの ぜんこうじ
 いつついづもの おおやし ろ むーつ むらむら じぞうさん
 ななつ なりたの ぶどうさん やーつ やはたの はちまんさん
 ここのつこうやの こうぼう し とーお ところの うじがみさん

一番初めは 一の宮
 二で日光 東照宮
 三で讃岐の 琴平さん
 四で信濃の 善光寺
 五つ出雲の 大社
 六つ村々 地藏さん
 七つ成田の 不動さん
 八つ八幡の 八幡さん
 九つ高野の 弘弘法師
 十 所の 氏神さん



平井 はる うた
 旧塩屋村を語る会 採集
 (昭和58年)
 友道令江子 採譜

19. 一番最初に一ノ宮 (まりつきうた)

いちばんさいしょに いちのみ や にーで につこう とうしょう ぐう
 さーんでさぬきの こんびら さん しーで しなのの ぜんこう じ
 いつつ いづもの おおやし ろ む ーつ むらむら じぞう さん

1. 一番最初に 一ノ宮

- 二で日光 東照宮
- 三で讃岐の 琴平さん
- 四で信濃の 善光寺
- 五つ出雲の 大社
- 六つ村々 地藏さん
- 七つ成田の 不動さん
- 八つ八幡の 八幡さん
- 九つ高野の 弘法さん
- 十を 所の 氏神さん

2. これほど信心 したなれば

- 浪さんの病気は治るだろ
- ゴーゴーゴと言う汽車は
- 浪子と 武夫の別れ汽車
- 二度と逢えない 汽車の窓
- 泣いて血を吐く ほととぎす

青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

20. うちの裏のチシャの木に (まりつきうた)

うちの うらの チシャ のき に
 すず めが さん びき と まっ て
 あち らの すず めも もの いわ ず
 こち らの すず めも もの いわ ず
 な かの すず めの いう こと にゃ
 ゆう べ もろ うた はな よめ さん
 きん らん どん すを ぬわ せた ら
 おく みも えりも よう つけ ん
 そんな よめ なら でて いにゃ れ
 でては いぬ るが みち しら ん
 みちは やま みち とお りみ ち

おくって くだ さい おと のさ ん
 おくって あげ るが ど こま で
 ドンドン やま の す そま で
 ドンドン やま の す そに は
 ツキ ツキ ボウ サン なき よっ て
 ツキ ツキ ボウ サン なせ なく の
 お やも な いし こ も な い し
 そ れが かな して なっ きょん じゃ
 な きょん じゃ

まりつき唄

うちの裏の チシャの木に 雀が三びき止まって
あちらの雀も もの言わず こちらの雀も もの言わず
中の雀の言うことによ 夕べもろうた花嫁さん
金欄緞子を縫わせたら 衽も襟(衿)もよう付けん
そんな嫁なら出ていにやれ 出てはいねるが道知らん
道は山道通り道 送って下さいお殿さん
送ってあげるがどこまで ドンドン山の裾まで
ドンドン山の裾には ツキツキボウサン鳴きよって
ツキツキボウサン何処鳴くの 親もないし 子もないし
それが悲して 鳴きよんじゃ 鳴つきよんじゃ

青島一二三・玉森信江 うた
赤穂歴史研究会坂越支部 採集
(昭和59年10月)
友道令江子 採譜

21. 郵便さん (なわとびうた)



ゆうびんさん またきた ホイ おかみのごようで エッサッ サ
エッササのみちで はなおが切れて まづまづ いっこん 勝ちました
勝ちました

郵便さん また来た ホイ
御上の 御用で エッサッサ
エッササの道で 鼻緒が切れて
まづまづいっこん 勝ちました 勝ちました

前川恵美子 うた
前川 竹司 採集
(昭和55年)
友道令江子 採譜

22. 郵便屋さん (なわとびうた)

ゆうびんさん おはいいり はいよろし もーかれこれ
じゅうにじ や えっさか まっさか おっちんとん ジャンケン ポン

郵便屋さん おはいいり はいよろし
もうかれこれ 12時や
えっさか まっさか おっちんとん
ジャンケンポン

青島一二三・玉森信江 うた
赤穂歴史研究会坂越支部 採集
(昭和59年10月)
友道令江子 採譜

23. 一匁の一助さん (あそびうた—手まりうた—)

いちもんめの いすけさん いの じが きらいで
いちまんいっせん いっぴゃくごく いっとう いっとう いっとう まの
おくらに おさめて にもんめに わたし
た

1. 一匁の一助さん 一の字が嫌いで
一万一千一百石 一斗一斗一斗まの
お蔵に納めて 二匁に渡した
 2. 二匁の二助さん 二の字が嫌いで
二万二千二百石 二斗二斗二斗まの
お蔵に納めて 三匁に渡した
- 以下 十匁まで唄っていく。

青島一二三・玉森信江 うた
赤穂歴史研究会坂越支部 採集
(昭和59年10月)
友道令江子 採譜

24. 淀の川瀬の (あそびのうた—まりつきうた—)

よ どの かわ せの はな みず ぐる ま
 う めと さく らを あわ せて み た ら
 う めの なが めは ピンコ シャン シャン ちょと
 こ め ついて ト ーン トン

淀の川瀬の 花水車

梅と桜を 合わせてみたら

梅の眺めは ピンコシャコシャン

ちょっと 米ついて トーン トン

青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

25. 中の中の小坊主 (あそびうた—なわとびうた—)

なかの なかの こぼう ず どうして そんなに ひくいの
 い せの えび かって だん だん たこなれ
 にっちも かっちも よおしゃ こい

中の 中の 小坊主

どうしてそんなに 低いの

伊勢の海老喰って だんだん高なれ

にっちも かっちも よおしゃ来い

青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

26. お爺お婆団子せ (あそびうた)

おじいおばあ だんごー せ だんご すりゃ こめが い る
 こめが いりゃ たんぼ せ たんぼ すりゃ どろが つ く
 どろが つきゃ あら え あら は つめたい わ
 つめた けりゃ ひにあた れ あたつ たら あーつ い わ
 あつ けりゃ あとへ よれ あとへ よつたら こけ る
 こけ りゃ つっぱり せ つっぱり せりゃ いたい わ
 いた けりゃ いた ばで ペツ タン トン

お爺 お婆 団子せ 団子すりゃ 米がいる
 米がいりゃ 田んぼせ 田んぼすりゃ 泥がつく
 泥がつきゃ 洗え 洗は 冷たいわ
 冷たけりゃ 火にあたれ あたったら 熱いわ
 熱けりゃ 後へよれ 後へよつたら こける
 こけりゃ 突張りせ 突張りせりゃ 痛いわ
 痛けりゃ 板場で ペッタントン

青島一二三・玉森信江 うた 採集
 赤穂歴史研究会坂越支部 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

27. かごめ かごめ (あそびうた)

かごめ かごめ かごのなかの とりーは
 いついつ でやーる よあけの ぼんに
 つるとかめと であって うしろのしょうめん だーれ

かごめ かごめ 籠の中の鳥は
 いついつ出やる
 夜明けの晩に 鶴と亀が出あって
 後の正面だれ

青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

28. 一ツ 雛が米の虫 (手合せうた)

ひ とつ ひよ こが こめの むし タイヤク ネンネン

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 一ツ 雛が米の虫 タイヤクネンネン | 二ツ 船には船頭さんが タイヤクネンネン |
| 三ツ 店には番頭さんが タイヤクネンネン | 四ツ 横浜異人さんが タイヤクネンネン |
| 五ツ 医者さん薬箱 タイヤクネンネン | 六ツ 昔は鎧で タイヤクネンネン |
| 七ツ 泣きべそひねり餅 タイヤクネンネン | 八ツ 山には天狗さんが タイヤクネンネン |
| 九ツ 乞食お碗持って タイヤクネンネン | 十 殿様お馬に乗って タイヤクネンネン |
| 十一 巡査が剣をさげて タイヤクネンネン | 十二 兄さん新聞読んで タイヤクネンネン |
| 十三 三味線ピンピラピンピラ タイヤクネンネン | 十四 新年おめでとう タイヤクネンネン |
| 十五 権兵衛が種まいて タイヤクネンネン | 十六 六助はちまき タイヤクネンネン |
| 十七 質屋のおかみさん タイヤクネンネン | 十八 浜では海水浴 タイヤクネンネン |
| 十九 櫛屋の娘さんが タイヤクネンネン | 二十 仁徳天皇バンザイ タイヤクネンネン |

青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

29. 豆だぐ徳利持て (童ざれうた)

まめ だ が とつくり も て さけ かい に
 さ か や の か ど で ビン め ん で
 い ん で おつ か ちゃんに し か ら れ て
 た ん す の ま え で な っ きよ っ て
 い つ せん も ろ て な き や ん だ

1. 豆だぐ徳利持て 酒買いに

酒屋のかど(表)で ビンめんで
 いんで(帰って)おっかちゃんに 叱られて
 たんすの前で 泣っきよって
 一銭もろて 泣きやんだ

2. あの子どもこの子 塩屋の文の子

文の銭盗んで 鯛こて喰て
 のどに骨立て キャッキャッと泣いた

青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

子もりうた

30. ねんねん (子もりうた)

ねんねん ころりよ おころりよ ぼう や のー おもりは
どこへい た あの やま こーえて
さとへい た さ と のー みやげに
なにもろ た でん でんー たいこに
しょうー の ふ え

ねんねん ころりよ おころりよ

坊やの お守りは どこへ行た

あの山 越えて 里へ行た

里の みやげに 何もろた

でんでん 太鼓に 笙の笛

前川恵美子 うた
前川 竹司 採集
(昭和55年)
友道令江子 採譜

31. ねんねんよお (子もりうた)

ねん ねん よお おこ ろり よー

ぼう やの おも りは どこ へい た

あの やまー こー えて さと へい た

さ との みや げに ーなに もろ た

でん でんー たい こや しょう のーふ え

な るか なら ぬーか ふい てみ な

びい ひゃら びい ひゃーら ふい てーみ な

ねんねんよお おころりよ
 坊やお守りは どこへ行た
 あの山越えて 里へ行た
 里のみやげに 何もろた
 でんでん太鼓や笙の笛
 鳴るか鳴らぬか 吹いてみな
 びいひゃら びいひゃら吹いてみな

青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

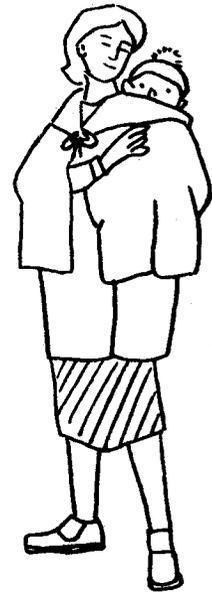
32. ねんねんよ (子もりうた)

ねんねんよ おころりよ
 ねたら おやまの きじのこさん
 おきたら おおかみ とつてかむぞ

ねんねんよ おころりよ

眠たらお山の 雉子の子さん

起きたら狼 とつてかむぞ



青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

33. ねんねしなされ (子もりうた)

ねんねしなされ おやすみなされ
 あさははよかーら おきなーされ ヨーイヨ

はしのしたにーは かごめが おじゃーる
かごめとりたーや おそろーしや ヨーイ ヨ

ねんねしなされ おやすみなされ
朝は早から 起きなされ ヨーイヨ
橋の下には 籠目がおじゃる
籠目取りたや 恐ろしや ヨーイヨ

前川恵美子 うた
前川 竹司 採集
(昭和55年)
友道令江子 採譜

34. あいつ憎いやつ (子もりうた)

あ いて にくいやつ ぼんぼん かわーい
つらに つららー がよつさー がる ヨーイヨーイ
つらに つららが よつ さが る

あいつ憎いやつ ぼんぼん かわい
^つ面につららが 四つ下がる ヨーイ ヨーイ
面につららが 四つ下がる

富田 らく うた
友道令江子 採集
(昭和59年 8月28日)
友道令江子 採集

35. 坊やお裏の (子もりうた)

ぼうやおうらの かきのき に ちゅんちゅくすずめが すをかけた
 もろこしだんごに ようにてる おたまごみつも うみました

1. 坊やお裏の柿の木に ちゅんちゅく雀が巣をかけた
 唐土団子もろこしによう似てる お卵三つも産みました
2. 母さん雀がだっこして 毎日ぽっぽに入れてます
 雨こんこん降るな風吹くな かわい赤ちゃんが泣こうもの

○この子もりうたは、当時の幼稚園でうたわれていたものです。

富田 らく うた
 友道令江子 採集
 (昭和59年8月28日)
 友道令江子 採譜

36. なんねころ市 (子もりうた)

なんねころ いち て んま の いち よ
 だ いこ そろ えーて ふね にーつ む だ
 いこ そろ えて ふね につ む

1. ねんねころ市 天満の市よ
大根そろえて 船に積む 大根そろえて 船に積む
2. 船に積んだら どこまで行きやる
木津や難波の 橋の下 木津や難波の 橋の下
3. 橋の下には かもめがおじゃる
かもめ可愛や いとおしや かもめ可愛や いとおしや
4. 寝たか寝なんだか かもめに問えば
かもめ正直もの 寝たと言うた かもめ正直もの 寝たと言うた



青島一二三・玉森信江 うた
赤穂歴史研究会坂越支部 採集
(昭和59年10月)
友道令江子 採譜

37. 紺屋のチュッチュさん (幼児あやしうた)

こう やの チュッチュ さん あい くて のり くて
すみの ほうへ クーチュク チュ

紺屋のチュッチュさん

藍喰て 糊喰て

隅の方へ クーチュクチュ

青島一二三・玉森信江 うた
赤穂歴史研究会坂越支部 採集
(昭和59年10月)
友道令江子 採譜

38. おせさん こせさん (幼児あやしうた)

おせさん こせさん しりが ひょこり でした
 なんぼほど でした ひょうたん ほど でした
 ひょうたんの しりに あつ つを すえて
 あつ や かな しや かな ほと けつ け
 いっちょ め にちよ め さんちよ めの うらで
 おお みず ながし て こぶ ねに のせて
 こぶ ねの せんど さん なは なんと もうす
 ○○ ちゃんと もうす もー うす もうすで
 はりの やまへ とんでゆ け

おせさん こせさん 尻がひょっこり 出ました

何ぼほど 出ました 瓢箪ほど 出ました

瓢箪の 尻に あつつ(おきゅう)を すえて

熱や 悲しや 金棒と けっけ

一丁目 二丁目 三丁目の 裏で

大水 流して 小舟に 乗せて

小舟の 船頭さん 名は何と 申す

〇〇ちゃんと 申す 申す 申すで

針の山へ 飛んで行け

青島一二三・玉森信江 うた
赤穂歴史研究会坂越支部 採集
(昭和59年10月)
友道令江子 採譜

祝いうた

39. アーヨーイサーエお伊勢参りは

(伊勢音頭一抜け参りー)

アーヨーイサーエ
 おいせま いり はーエー ヨアヨイ
 ヨイみのぬけー ヨーイーまー
 いーりアラ ヨーイーセー
 コーラセアラーわしも ナーエー
 ぬけーます ソーラーヨ
 あーすのーヨーサ
 ソリャーヤー トコーセー
 ーノヨーイーヤー ナホラ

アレ ワイ セ ー コレ ワイ セ ー

ア ア ヨ ー ー イ ー ト セ

アーヨーイサーエ

お伊勢参りはエーヨア ヨイ ヨイ

身の抜けヨーイ参り アラ ヨーイーサー コーラセ

アラ わしもナーエ 抜けます ソーラヨ

明日の ヨーサ ソリヤーヤー トコーサーノ ヨーイーヤーナ ホラ

アレワイサー コイワイサー アア ヨーイトセ

折田 浜治 うた
 赤松 秀幸 採集
 (昭和40年6月5日)
 赤松 秀幸 採譜

40. ハーお伊勢参りして (伊勢音頭)

ハー おいせまーいりーしーて ヨイヨイ

このこがーヨーイ エーでーきーた

アーヨーイセ ソラセ

ハーこのこなーいせまつ ヨーイソラエ

アこいせまーつ ソラソラヤトコセー

ヨイヤナ ソラアレワイセー コレワイセー

ソラーヨーイトーセ

ハー お伊勢参りして ヨイヨイ
 この子がヨーイ エー出来た アーヨーイセ ソラセ
 ハー この子な伊勢待つ ヨーイソラエー
 アー 小伊勢待つ ソラソラヤトコセー
 ヨイヤナ ソラアレワイセー コレワイセー
 ソラーヨーイトーセ

池本 善吉 うた
 池本 一一 採集
 (昭和40年1月1日)
 友道令江子 採譜

41. アヨーイサーエ播州出たときゃ (伊勢音頭)

ア ヨーイ サーエ ば んしゅで た と きゃー ヨイヨイ

な み だ で て た え な ヨーセ コーラセ

アラ いまは ナ エば んしゅう の そ ら よ

か ぜ も イーヤ ソラーヤート コセー ヨーイーヤナホラ

アレワイセー コレワイセー サーヨーイトーセ

1. アヨーイサーエ 播州出たときゃ ヨイ ヨイ
 涙出たえな ヨーセ コーラセ
 アラー 今はナエ播州の空よ
 風も イーヤ ソラーヤートコセーヨーイーヤナホラ
 アレワイセー コレワイセー サーヨーイトーセ
2. アヨーイサーエ 傘を忘れたえな ヨイ ヨイ
 伊勢路の茶屋で ヨーセ コーラセ
 アラ とりにゃ行かれず 持て来ちゃくれず
 空がな 曇ればよ そらよ 思い出す
 アレワイセー コレワイセー サーヨーイトーセ

田淵 銀三 うた
 旧塩屋村を語る会 採集
 (昭和58年)
 友道令江子 採譜

42. 奈良で名所は (伊勢音頭)

ならでめーいしよは エ ナ ヨイ ヨーイ
 さるさわーのーエーいけーよー
 ハ ヨーイ セ ソーラ セ
 うおがささんぶに みずしちぶ アードッコイ
 それをなえかげさす ヨーイソーラーエ
 アみかさーやーま ソラソラヤートーコセ
 ヨーイヤナ ソラ アレワイサーーコレワイサーー
 ソラー ヨーイートセ

奈良で名所は エナ ヨイヨイ
 猿沢のーエ池よ ハヨイセ ソーラセ
 魚嵩三部に水七部 アードッコイ
 それをなえ 影さす ヨーイソーラーエ
 ア 三笠山 ソラソラヤートーコセ
 ヨーイヤナ(ソラ)アレワイサーー コレワイサーー
 ソラー ヨーイートセ

橋本 光男 うた
 友道令江子 採集
 (昭和59年11月30日)
 友道令江子 採譜

43. 目出たな一工 (婚礼のうた)

めでたな一工 めでたのーよ ヤレヤロー

わかまつーー さまーーはエー えだもなさかえてーよ

やれはもーしげるな一工

1. 目出たなエ 目出たのよ ヤレヤロー
若松さまはエー 枝もな 栄えてよ やれ葉も茂るなエ
2. ここのな 娘はよ ヤレヤロー
たにごの水よ 一度 なでたらよ やれ帰りやせぬな
3. 蝶よな 花よと ヤレヤロー
育てた娘 今日のはな はれたの やれ嫁とるな
4. 親衆な 喜べよ ヤレヤロー
今日来た嫁は 末じゃ まつごのよ やれ水くれるなよ
5. 娘が出てゆくよ あとたのみます ヤレヤロー
今度くるときゃ やれ客でくるなえ

○婚礼の時に、お祝いとして歌われた、家島町の、めでた節と、歌詞は同じである。

田淵銀三・平井はる・加藤平太郎 うた
旧塩屋村を語る会 採集
(昭和58年)
友道令江子 採譜

44. うちの座敷は (おめでたい時のうた)

うちのざしきー はめでたいざしきソーラ

つるとかめとーがよまいーをーまうおもしろや

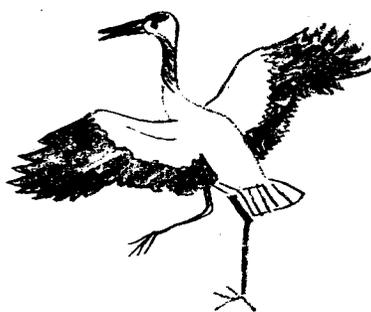
ヤレコラノー ヒョウタン ヤ ヨイシヨヨイシヨ

うちの座敷は 目出たい座敷 ソーラ

鶴と亀とが 舞いを舞う おもしろや

ヤレコラノー ヒョウタンヤ ヨイシヨ ヨイシヨ

○婚礼など、おめでたい時には必ず歌われていた。



富田 らく うた
友道令江子 採集
(昭和59年8月28日)
友道令江子 採譜

45. 娘な一工 (長持唄)



 むすめ な一エ よく きけ ヤレヤレ



 こうなる からにや にどとな一



 かえろと一 おもう なエ ドッコイドッコイ

1. 娘なエ よく聞け (ヤレヤレ)

こうなるからにや 二度とな

帰ろと 思うなエ (ドッコイドッコイ)
2. それじゃな おかさん (ヤレヤレ)

いきますほどに あとはな

ごかんじよは たてなされ (ドッコイドッコイ)
3. ささな一 これから (ヤレヤレ)

荷をあらためて お国にな

つみあげ 富士の山なエ (ドッコイドッコイ)



池本 善吉 うた
 池本 一一 採集
 (昭和40年1月1日)
 友道令江子 採譜

祭りうた

46. イヤーエここのな座敷は (屋台音頭—やたげのうた—)

イヤ --- エ ここのな ---

ざし --- き --- は ヨーイヨーイ

めでた --- い --- ざ --- し --- き

ソラヨ --- イセ コラセ

アラエ つる --- と な --- エ か め --- と ---

が --- エ ソレ エハサ --- ま --- い --- あ --- そ --- ぶ

ソラヤ ト --- コセ --- ヨ イ --- ヤ ナ

アレワイセ --- コレワイセ --- ソラヨイ --- ト --- セ

1. イヤーエ ここのな座敷は (ヨーイ ヨーイ) 目出たい座敷 ソラヨイセ コラセ

アラエ 鶴となエー 亀とがエー ソレエハサー 舞い遊ぶ

(囃子) ソラヤトセーコセー ヨイーヤナ アレワイセー コレワイセー ソラヨイートーセ

2. イヤーエ お前百まで(ヨーイヨーイ) 我しゃ九十九まで ソラヨーイセ コラセ

アラエ 共にエー 白髪のエー 生えるまで ソレエハサー

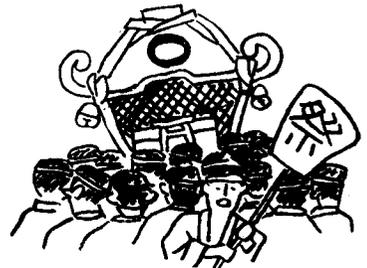
(囃子) ソラヤトセーコセー ヨイーヤナ アレワイセー コレワイセー ソラヨイトーセ

中田勇・長田順一・目坂常夫 うた
塩屋西屋台保存会 採集
(昭和59年11月20日)
友道令江子 採譜

47. イヤーエ目出た (屋台音頭—やたげのうた—)

イヤーエー エ めでたー めでたー の ヨイ ヨイ
わかー まつー さまー よ アラヨイセ コラセ
アラえー だもー さかー えー てー
ソレーハサ はもしーげーる
ソラヤトーコセー ヨイーヤナ アレワイセー
コレワイセー ソラヨイトーセ

イヤーエー 目出た 目出たの (ヨイヨイ)
若松さまよ アラヨイセ コラセ
アラ 枝も 栄えて ソレーハサ 葉も茂げる
(囃子) ソラヤトーコセー ヨイーヤナ
アレワイセー コレワイセー ソラ ヨイトーセ



田淵 銀三 うた
塩屋東屋台保存会 採集
(昭和59年11月6日)
友道令江子 採譜

歳時うた

48. おんの豆おくれ (節分のうた)

おんの まめ おく れ おんの まめ おく れ

おっけんば ばあ おいだせ おいだせ

おんの豆おくれ おんの豆おくれ
おっけん婆ばあ 追い出せ 追い出せ



西中正次郎 うた
塩屋東睦会 採集
(昭和59年11月6日)
友道令江子 採譜

49. 今夜参ってくらんせよ (報恩講のうた)

こ んやまいって くらんせ よ おさいせんがいち もん いるけど も

にんじんごんぼで よんたん よ

今夜参ってくらんせよ お賽銭が一文いるけども
人参ごんぼでよんたんよ

旧塩屋村を語る会員一同 うた
旧塩屋村を語る会 採集
(昭和58年)
友道令江子 採譜

50. アラ もろたり (堅鞞音頭)

アラ もろー たーりー りー --- もろ たーりー りー コラ ショー

このーあーとへ もろーた アラもーろーたー ---

あたーしーが コラシヨッショイおきちよー --- でーへーたー --- で

ヨーイ ヤタコラ サーノセー --- コレワイ サーノセ

アラ もろたり もろたり コラシヨ

このあとへ もろた アラ もろた

あたしが (コラシヨッショイ) おきちよで 下手で

ヨーイ ヤタコラサーノセー コレワイサーノセー

田淵 銀三 うた
 旧塩屋村を語る会 採集
 (昭和58年)
 友道令江子 採譜

51. みんなで (ちょうちん行列のうた)

ひゃーん どえ ひゃーん どえ あねさん まっとくらんせ
よさくろへ

1. ひゃーんどえ ひゃーんどえ

姉さん 待っとくらんせ よさくろへ

2. ひゃーんどえ ひゃーんどえ

みんなで よい年 とりましょう

○坂越の汐見で、おおみそかに行なわれていたちょうちん行列の時、歌われていました。
しかし、その後夜出歩くということで、当時の小学校の校長によって禁止され、次第にうたわれなくなったということです。

富田 らく うた
友道令江子 採集
(昭和59年8月28日)
友道令江子 採譜

記念うた、その他

52. 我らの住める (塩屋村のうた)

The musical score is written on three staves in treble clef with a key signature of two sharps (D major) and a 4/4 time signature. The lyrics are written below the notes.

われらの すめる さとのな は あ こう ぐん のー しおやむら
ひーがしどなりは あこ うちょう にしはーびぜんの く に ざか い
みなみはうみにきたはやま あざのかずはーむ一つにて

我らの住める里の名は 赤穂郡の塩屋村

東隣は赤穂町 西は備前の国境

南は海に北は山 字の数は六つにて

田淵 銀三 うた
塩屋東睦会 採集
(昭和59年11月6日)
友道令江子 採譜

53. 青き荒野の (尾崎小学校新築祝い唱歌)

あ お き こ う や の は て し な く
ち - ぐ さ か は ん に は る ち か し
あ - お き み さ ま に よ み あ え る
み や ま の 木 々 は も え い で ぬ

1. 青き荒野の 果てしなく 千種河畔に 春近し

青き見様に よみあえる み山の木々は 崩えい出ぬ

2. 水の温みに 誘われて 木々の目覚めに そそられて

我らが 学ぶ学校は 恵みの庭に築かれる

3. 尾崎五千の 村人が 明日の野辺に しもをふり

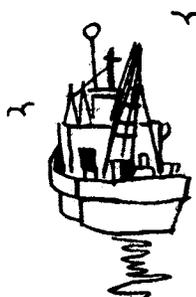
夕べの浜に いそしみつ 折り ささえし魂ぞ

山本巻之助 うた
尾崎地区老人会連合会 採集
(昭和59年12月16日)
友道令江子 採譜

54. 晴れた青空 (坂越港 朝の風景のうた)

は れ た あおぞら かもめが とぶよ
 おきへ でて ゆく おおぶね こぶね
 あげた しらほに あさかぜ うけて
 ゆらり ゆらゆら ならんで ゆくよ

晴れた青空 かもめが飛ぶよ
 沖へ出てゆく 大舟小舟
 掲げた白帆に 朝風受けて
 ゆらりゆらゆら 並んでゆくよ



富田 らく うた
 友道令江子 採集
 (昭和59年8月28日)
 友道令江子 採譜

55. 山岳ふるい古歌言わく (日露戦争のうた)

さんがくふるい こかいわく こえはてんちにとどろきて
 とうようへいわはやぶれたり てきはだれぞ なにものぞ

山岳ふるい 古歌言わく 声は天地に 轟きて
 東洋平和は 破れたり 敵は誰ぞ 何者ぞ

田淵 銀三 うた
 塩屋東睦会 採集
 (昭和59年11月6日)
 友道令江子 採譜

56. 一烈談判 (日露戦争のうた)

い ち れ つ だ ん ぼ ん は れ つ し て

に ー ち ろ せ ん そ う は じ ま っ た

さ っ さ と に げ る は ロ シ ア の へ い

し ん で も つ く す は に ほ ん の へ い

ご ま ん の へ い を ひ き つ れ て

ろ く に ん の こ し て み な ご ろ し

し ち が つ よ ー か の た た か い に

や ま と た ま し が あ ら わ れ て

こ こ の つ こ こ ら で こ う さ ん し

と ー を と う と う に ほ ん か ち

一烈談判 破裂して
 日露戦争 始まった
 さっさと逃げるは ロシアの兵
 死んでも尽くすは 日本の兵
 五万の兵を 引き連れて
 六人残して 皆殺し
 七月八日の 戦いに
 大和魂が 現われて
 九つこらで 降参し
 十をとうとう 日本勝ち

青島一二三・玉森信江 うた
 赤穂歴史研究会坂越支部 採集
 (昭和59年10月)
 友道令江子 採譜

57. 国の基は (国勢調査のうた)

くに の もと い は とち と ひ と
 とち は た み あり もち う べ く
 た み あり せい じ お こ な わ る
 た み は こ つ か の た か ら な り

1. 国の基もとは土地と人 土地は民あり持ちうべく
民あり政治行なわる 民は国家の宝なり
2. 宝たるべき人口の その総数が正確に
わからぬ事は国の恥 人口調査は大切ぞ
3. これまで調べた人口は 帳簿上の調べゆえ
不正確にて国勢の 羅針となすに難ければ
4. 全国人口一人も もれなく同時の現在を
実地について調査する これが国勢調査なり

山本巻之助 うた
 尾崎地区老人会連合会 採集
 (昭和59年12月16日)
 友道令江子 採譜

あ と が き

この度、「赤穂のしごとうた・わらべうた」の調査に取り組んでみまして、赤穂にもこれらの唄が実に多く残っていることがわかりました。しかし、残念なことに昔唄ったり、聞いたりした高瀬舟、石切りのしごとうたなど収録できないものもありました。

また、はじめての調査でもあり、調査地区・伝承者も限られ、まだまだ埋もれた唄が残っていると思います。加えて今回収集した唄全てを掲載することもできませんでした。

この冊子に採録されたものが手掛りとなって、市民各位の目にとまり、全市域から、「まだ、こんなうたがあるぞ!」と埋もれた唄が寄せられたり、発掘されることを期待します。

なお、次年度も引き続いて、採集もれのしごと唄、わらべ唄、民謡調査と併せて、赤穂で唄われた記念歌、校歌も調査に加え、赤穂に関するうたの歌詞採集のみならず、録音、採譜を考えていますので、熱意のこもる力添えを得まして、貴重な資料を提供くださるよう切望します。

最後に、この調査にあたってご尽力、ご協力をいただいた方々のお名前を掲げ、謝意を表します。

調査員

赤松 秀幸 (赤穂高等学校教諭)

友道令江子

伝承者

前川喜美子 (赤穂)	明治40年生	田淵 銀三 (塩屋)	明治27年生
折田 浜治 (塩屋)	明治30年生	平井 はる (塩屋)	明治43年生
上住 磯治 (塩屋)	明治44年生	西中正次郎 (塩屋)	大正5年生
加藤平太郎 (塩屋)	大正7年生	長田 順一 (塩屋)	昭和6年生
中田 勇 (塩屋)	昭和6年生	目坂 常夫 (塩屋)	昭和7年生
山本巻之助 (尾崎)	明治43年生	安治 運一 (尾崎)	明治43年生
富田 らく (坂越)	明治26年生	玉森 信江 (坂越)	大正8年生
青島一二三 (坂越)	大正9年生	池本 善吉 (有年)	明治28年生
橋本 光男 (有年)	明治42年生		

調査協力者

前川 竹司 (赤穂) 明治39年生

山脇文次郎 (御崎) 大正3年生

赤穂地区老人会連合会

塩屋東屋台保存会

塩屋西屋台保存会

旧塩屋村を語る会

塩屋東睦会

尾崎地区老人会連合会

赤穂歴史研究会坂越支部

有年地区老人会連合会

河部 昌弘 (表紙絵)

友道令江子 (カット絵)

長棟 三枝 (塩屋) 大正8年生

池本 一一 (有年) 大正8年生

赤穂のしごとうた・わらべうた 第1集

昭和60年3月31日

編集
発行

赤穂市教育委員会
〒678-02 赤穂市加里屋81番地
☎07914-3-3201

印刷

宮本印刷
〒678-01 赤穂市木津1045番地
☎07914-8-0509
